

お祖師さまを巡る人々

第29回



高祖日蓮大士ご降誕
800年慶讃

【光日尼】は、安房国天津（千葉県鴨川市）の人なんだ。天津は、お祖師さま（高祖日蓮大士）のお生まれになった小湊から五、六キロ西にある所だから、お祖師さまとは、ご近所で顔見知り（あまり親しくないけど、顔は知っている）だったんだね。ご主人を亡くされ、また頼りにしていた息子の《弥四郎》も亡くしてしまっただ。今回は、「光日尼」のお話を二回に分けてするね。



鎌倉時代の武士の姿
光日尼の息子・弥四郎は「青年武士で賢く容姿端麗」。光日尼にとっては自慢の息子であったようだ。

【光日尼】の息子《弥四郎》

【光日尼】の息子《弥四郎》は、まじめな青年武士で、天津に住む母の【光日尼】とは離れて暮らしていたんだ。

ある日、お祖師さまが鎌倉（神奈川県）で辻説法（道や通りを行ったり来たりする人に、仏様の教えを説き聞かせること）をされている時、見覚えのある（前に見たことのある）青年がいたんだよ。

この青年は後日、「私は《弥四郎》と申します。天津の出身で私も母もお祖師さまのことをよく知っています。一度お会いして、ご相談したいことがあるのですが…」とお祖師さまに手紙を出したんだ。お祖師さまは、「故郷の人だから」と、喜んで会って話を聞かれたんだね。



弥四郎はお祖師さまに「武士としての後世の不安」の相談と、万が一のことがあったら「母を教導して欲しい」と依頼していた。

《弥四郎》は、真面目にご信心に励み、そのお陰（仏様のお守り）をいただいたいて、心配していた戦に行かなくて、よくなったんだよ。

母【光日尼】の悲しみ

でも、それから二十年がたった文永十一年（一二七四）六月八日、《弥四郎》は戦に行かされて亡くなってしまうんだ。しかも人を殺してしまい、自分も亡くなってしまうんだよ。

母の【光日尼】は《弥四郎》の死を、とても悲しむんだ。そして「人を殺してしまっただ息子は地獄に堕ちて苦しんでいるのでは？」と凄く心配するんだね。

【光日尼】の悲しい心を慰め（落ち込んでいる）だりしている人の気持ちを落ち着かせるてくれたり、疑問に答えてくれる人は、誰もいかなかったんだ。本当に可哀そうだね。それから二年の日々が過ぎ、【光日尼】の心は、ますます「息子は地獄に堕ちて苦しんでいるのでは？」と不安な気持ちでいっぱいになったんだよ。そこで【光日尼】は、同郷（同じ地方の出身）で、顔見知りであったお祖師さまにお手紙を出されたんだね…。

（つづく）



現在の天津地方のようす
お祖師さまは「小湊」、光日尼と弥四郎は「天津」で、同じ安房国（千葉県南部）の出身者。お互いに顔見知りであったようだ。

そして、「父はすでに亡くなっています。もし私が亡くなれば母はたった一人になってしまいます。私が亡くなった時には、どうぞ母のことをよろしくお願います」と《弥四郎》はお願いをしたんだね。

お祖師さまは、《弥四郎》のこの相談に親切にお答えになり、「弥四郎」はとても感動し御題目のご信者となったんだ。



日蓮聖人の辻説法
お祖師さまが辻説法中、聴衆者の中に見覚えのある青年の姿が。後日、その青年から「お会いしたいのですが」と丁寧な手紙が届いた。